

10月第31日・日曜日

川越まつりは、慶安元年(1648)城主の松平伊豆守信綱が氷川神社へ祭礼用具を寄進し祭礼を奨励、同4年(1651)に御輿が氏子の町を渡御したのが始まりと言われています。川越まつりは元来、氷川神社の例大祭で、神社の神事祭式と氏子の上下十カ町が中心になって行う余興の町方祭礼行事から成立したものでした。しかし、その後、祭りの様式は大きく変遷。文政9年(1826)の氷川祭礼絵巻では、神幸祭を先頭に列をなして川越城へ向かう笠鉾形式の山車と踊り屋台などの付け祭りが克明に描かれています。天保15年(1844)の祭礼絵馬では、全ての山車が一本柱型式に統一され、勾欄に人形を乗せているのがわかります。さらに文久2年(1862)の一枚ずりの番附絵では、南町と志義町が、早くも二重鉾の江戸型の山車になっています。明治以降になると踊り屋台や底抜け屋台が次第に姿を消し、祭礼の運営は山車を主体とした現在の形になっていきます。

川越のお囃子 川越まつりでのお囃子は、笛1人・大太鼓1人・小太鼓2人・鉦1人の囃し手5人で構成され、天狐や獅子などの舞い手と共に山車に乗り、華々しい演奏や舞を披露します。最大の見せ場は曳っかわせで、まつり最中山車と山車が出会うと、お互いに囃子台を向い合せて競い合います。勝敗は無いですが、これが川越まつりのクライマックスです。



川越まつり会館
KAWAGOE FESTIVAL MUSEUM

開館時間 午前9時30分～午後6時30分(4月～9月)入館は6時まで
午前9時30分～午後5時30分(10月～3月)入館は5時まで

休館日 毎月第2、第4水曜日(休日の場合、その翌日が休館日)
12月29日～1月1日・臨時休館日等

観覧料 一般 300円(団体240円)
小中学生 100円(団体80円)
※団体料金は20名以上の場合

☆4館共通券も好評発売中
一般 通常800円を600円
大学・高校生 通常550円を400円
川越まつり会館・川越市立博物館・川越市蔵造り資料館・川越市立美術館の4館を6ヶ月間有効でご利用いただけます。

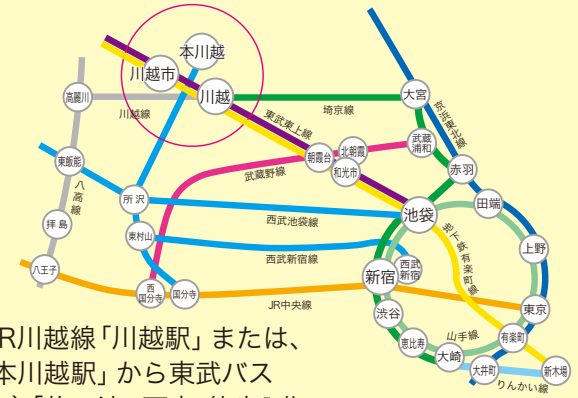
〒350-0062
川越市元町2丁目1番地10
tel.049-225-2727
fax.049-227-5001



再生紙を使用しています

■電車ご利用の場合

池袋から……東武東上線急行で31分川越駅下車
大宮から……JR川越線で18分川越駅下車
新宿から……西武新宿線快速急行で47分本川越駅下車
JR埼京線通勤快速で48分川越駅下車
有楽町から……地下鉄有楽町線で60分川越駅下車
八王子から……JR八高線で61分川越駅下車
東京テレポート(お台場)から……りんかい線で71分川越駅下車



東武東上線・JR川越線「川越駅」または、西武新宿線「本川越駅」から東武バス(蔵のまち経由)「札の辻」下車・徒歩1分または、小江戸巡回バス(イーグルバス)「蔵の街」下車すぐ

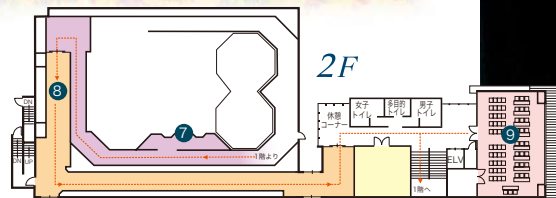
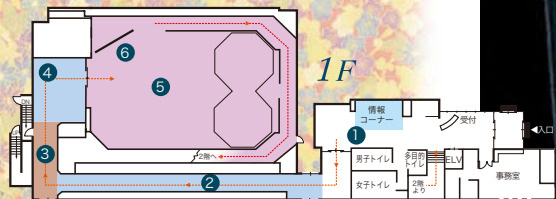
■お車ご利用の場合

関越自動車道練馬I.C.～川越I.C. 21.2km
国道16号 八王子～川越市街 36km
国道254号 池袋～川越市街 32km
※所要時間・距離は目安です。

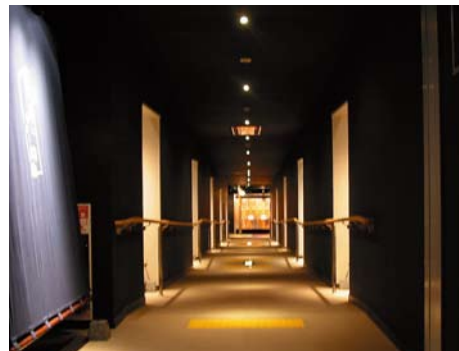


川越まつり会館のご案内

いつ訪れても、まつりの
興奮と感動でいっぱい



▲① エントランスホール
情報コーナーでは川越まつりや山車の参加する全国の祭りの情報を自由にご覧いただけます。



▲② まつりに向かう路地
川越まつりの準備を川越唐棧の染め抜きで紹介しています。



▲③ まつりへの思い
川越まつりに携わる人々の様々な思いを紹介しています。



▲⑤ 山車展示ホール 実際に川越まつりで曳かれる本物の山車2台を、定期的に入れ替えながら展示しています。華麗な幕や精巧な彫刻により飾られた豪華絢爛な山車の迫力を間近でご覧いただけます。



▲④ 会所に集う
神と人、人と人が出会うまつり全体の指揮所であり、行き交う人々の会話が再現されています。



▲⑥ 大型スクリーン (6m×4m)
川越まつりの熱気と興奮が体験できます。上映時間約6分。(20分おきに上映)



▲⑦ まつりに参加する
天狐、ヒョットコのお面のをぞき込むと、舞手の視点から見た川越まつりの情景が広がります。



▲お囃子の実演(約20分)
展示ホールでは、日曜・休日のPM1:30・PM2:30の2回、お囃子の実演も行われます。



▲⑧ 展示コーナー
川越まつりやお囃子の歴史を説明し、関係資料を展示しています。



▲⑨ 視聴覚室
川越まつりの歴史と、まつりへの様々な想いを2種類の映像を通してご覧いただけます。